

41 北風のくれたテーブルかけ (ノルウェーの昔ばなし)

あるところに貧しいお母さんと男の子がいっしょに暮らしていました。

ある日、男の子がパンを焼く粉を入れ物に入れて外に出たとたん、北風が粉を吹き飛ばしてしまいました。

かんかんに怒った男の子は粉を返してくれるよう、北の果てまでの長い道のりを北風に会いにいきました。

北風はかわりにごちそうを出すテーブルかけをくれましたが、帰りに泊まった宿屋の夫婦にすりかえられてしまいました。

テーブルかけがごちそうを出さないで、再び北風のところに行き金貨をだす羊を男の子はもらいました。

しかし、また盗まれてしまい、今度は命令すると相手をたたくステッキをもらいました。

宿屋があやしいと思った男の子は寝ないで見張っていました。

「ステッキよ、ぶちのめせ！」夫婦が犯人とわかり、男の子はステッキに叫びました。

ステッキは二人をほかほか。夫婦は反省して盗んだものを返してくれました。

こうして男の子は粉よりもずっと素敵なものを持ってお母さんの所に戻り、幸せに暮らしました。

北国に生きる力が、少年をたくましく育てました。

ローム君の新・博物日記 第41話

世界昔ばなしを科学する

このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

お知らせ
バックナンバーは、
ロームの文化支援のサイトで
ご覧いただけます。
www.rohm.co.jpへアクセス

●厳しさが育む、たくましさ。

「北風のくれたテーブルかけ」は、ノルウェーで特に有名な昔ばなしです。そして、3つの道具をもらうモチーフに限れば、世界中に類話が見られます。グリムにも類話がありますし、イタリアの昔ばなし集にもあります。3つの道具は、食べ物、お金、身を守るための道具、といったように人間が生きていくために重要なものばかり。特に望みの食べ物が何でも出てくる場面は、子供たちにとっても人気が高いので、世界中で受け入れられる理由の一つになったようです。ノルウェーでは、それらの重要な道具をくれる存在が北風です。海洋民族として、船の動力となる風に畏敬の念を抱いていたからでしょう。そして、失敗しても少年が粘り強く北風に会いに行く姿は、厳しい北欧の自然で生き抜くための力を育む、成長の物語でもあるのです。

●温度の違いが、風になる？

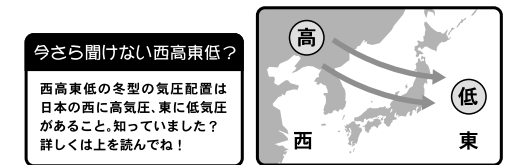
冬はストーブをつけると周りの空気が暖められて軽くなり、部屋の天井に上がっていきます。逆に、夏は天井付近のクーラーで冷やされた空気が下に落ちてきます。暖かい空気は上へ、冷たい空気は下へ循環しながら温度を一定にしようとする働きを対流といいます。これを地球規模で考えてみましょう。太陽に温められた空気は、軽くなって上昇気流が起こります。地表付近の空気は薄くなり気圧が下がるため“低気圧”となります。そして、空気が薄い低気

圧は、周りの空気を吸い寄せます。逆に日光が当たらないと、空気は冷えて重くなり、どんどん重なりながら下降していきます。そして、空気の密度が高くなった“高気圧”の状態となり、空気が周辺に吹き出すのです(※)。低気圧が空気を吸い込み、高気圧が空気を吐き出して風が起こるといわけですね。

※実際には、このように発生する低気圧、高気圧は熱帯低気圧(台風)やシベリア高気圧などに限られます。日本のような中緯度地方を移動する低気圧、高気圧は上空を流れる偏西風の蛇行が主な発生原因になっています。

●冬に強くなる北風のヒミツ。

冬になると日本でも強い北風が吹きます。それは、日本の西側に極寒地であるシベリアがあることが関係しています。前述の通り、西側のシベリアは寒いので重くなった空気がどんどんと下にたまって寒冷な“高気圧”が発生します。反対に東側の太平洋は“低気圧”が発生します。この状態がいわゆる“西高東低”の冬型の気圧配置です。風は高気圧から低気圧へ吹くので、日本付近は、西側のシベリアから強い北風(正確には北西風)が吹くのです。西高東低で、強い北風が吹きすさぶ日本の冬。昔ばなしの少年のように東奔西走して、たくましく冬を乗り越えましょう。



昔ばなし監修/昔ばなし研究所所長 小澤俊夫 取材協力/大阪管区気象台予報課天気相談所